

コートダジュール大学
BESIGN The Sustainable Design School 交換留学
月例報告書（1月分）

鈴木 梨恵琉

日本のように三が日は無く、3日から始まる学校。雪もなしお雑煮もなし初詣もなし。正月ルーティーンがないと、なんだか新年の気がしないのも新たな発見です。

フランスの1月には、ガレット・デ・ロワというお菓子を食べる風習があります。日本語に訳すと、王様のケーキ。ケーキのどこかにフェーブという小さなおもちゃが入っていて、フェーブが入った一切れを食べると王冠が貰えて、王様になれます。フェーブのコレクターも多くいるそうです。フランス人の学生が用意してくれたので、クラスメイトの皆で食べました。残念ながら王様にはなれませんでした…アーモンドペーストのパイは甘すぎず、美味しかったです。



誕生日は平日だったので、沢山の友人が Happy birthday! と声をかけてくれました。「りえる お誕生日おめでとうございます」と目の前で書いてくれる友達もいました。きっと昨日たくさん練習をしてくれたのだろうとありがたい気持ちでいっぱいです。帰り道は夕焼け空がとても綺麗で、海へ駆けるその途中、盛大に転んでしまいました。知らないマダムから低いトーンで聞かれます。「Ça va…?」「Ça va!」七転び八起き。そんな22歳の始まりです。夕食は、ラクレットパーティー。チーズが大好きなので、ほぼ毎年チーズフォンデュでお祝いしてきましたが、ラクレットは実は人生で初めて。



美味しくてたまりません…! フランスのチーズは本当に美味しい。日本でもチーズが好きと言う人は多いですが、この国でそれを言うと「何のチーズ?」と大抵聞かれます。初めはこの質問に戸惑ったのも事実です…。皆どのチーズが好きかこだわりがあるようで、とても勉強になります。

第二週目の水曜から大規模なセール期間 SOLDE が始まり、多くの人がショッピングバックを持って街を歩いています。服をあまり持ってこなかったのも、お店に入っては気に入る服がないか探していましたが、ボトムスは見ると足が長くてきつと履けま

せん。50%offになっていた長袖のTシャツを買いました。まだまだ探します！

今月は「ブランディング」や「バイオミクリーと気候変動」などの授業があり、異なる視点や新しい知識が増えることを実感できました。一方で私たちのクラスでは学校に対しての不満が積もっていた一面もあり、ポストイットに今の学校に対する私たちの思いを書き、先生達に伝えることにしました。このような時に直接、当事者間のみで話し合おうとするのは私の感覚だと日本とは異なる考え方だと感じました。先生に共有した後は、期待していた結果では無さそうでしたが、その後先生は改めて場を設けて、返答が書かれたポストイットと共に、全員の先生と生徒で話し合いました。



Partnership Project のプロトタイプのテストを遠方でするため先生の車で移動する途中で先生のお宅にお邪魔させていただきました。信じられないほど大きな家で驚きました。海外の一軒家の中に入るチャンスはそこまで多くないので嬉しいです。温もりある色味、テラコッタの床、内装からも石造りと感じられます。まさにフレンチスタイル。アート関係の仕事をする親族が多いそうで、センス溢れるお家でした。



アジアンミュージアムの特別展「HOKUSAI」が今月末まで開催されていたので、ベネズエラ出身の友達と見に行きました。多くの北斎の作品をなんと無料で見ることができました。彼女は版画作品をメインにアーティスト活動をしていて、北斎についてよく知っていました。彼女はフランス語も話せるのでキャプションなどを説明してくれたり、北斎の使った「青」や技術について話してくれたりしました。私も北斎の絵の中の生活や文章・百人一首や地名などの日本のことについて説明ができ、北斎の作品を通して、様々なことをお互いに共有し合うことができました。日本史を学んだことがとても役に立ちました。今まで有名な作品のみ、歴史を学ぶ過程で知っていただけだったので、今回の出来事で北斎や浮世絵の印象が大きく変わり、想像を超えて良い経験になりました。海外では日常的に北斎の作品、特に「神奈川沖浪裏」のモノが溢れています。日本を出るからこそ、外国から見た「日本」を少し感じることができます。

上旬までは暖かったニースですが、下旬は渡航してから最も寒く感じました。体感だと今は日本と同じくらい寒い気がします。早く暖かくなってほしいです…。